

主があなたと共におられる

ルカ 1 : 26 - 38



司祭 ヨハネ 井田 泉

2020年12月20日

降臨節第4主日

上野聖ヨハネ教会にて

「六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。」ルカ 1:26-27

先週は神から遣わされた人、洗礼者ヨハネが福音書に登場しました。今日登場したのは、神から遣わされた天使ガブリエルです。

神さまは一人の若い女性に目を留められました。その人を、神がこれから世界と人類を救おうとされる大きな計画のかけがえのない存在として選び、用いようとされるのです。名前はマリア。年齢は十代半ば、ヨセフと婚約中の身です。

その神の計画をマリアに伝えるために指名されたのは天使ガブリエルです。ガブリエルが神から託されたのは情報伝達という程度のものではありません。どうしてもマリアに引き受けてもらわねばならない、神からの使命です。それを聞かされるはずのマリアは、疑うかもしれない。拒否するか逃げるかもしれない。しかしガブリエルは固く決心していました。マリアがそれを受け入れるまでは帰らない。どんなことがあっても絶対に受け入れてもらう。天使ガブリエルは、決意と祈りをもってマリアのところにやって来ました。

「天使は、彼女のところに来て言った。『おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。』」ルカ 1:28

天使ガブリエルはマリアに呼びかけました。

「おめでとう、恵まれた方！ 主があなたと共におられる。」

しかしマリアは困惑します。

「マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。」1:29

ここでガブリエルが弱気になったら、決してマリアを説得できなかったでしょう。ただマリアを困惑と恐怖の中に陥らせるだけになったでしょう。しかしガブリエルには決意があります。その決意を支えるのは、この世界と人類を滅びから救おうとされる神の情熱と神の確かさです。神の愛がガブリエルを動かし、ガブリエルをとおして神の愛がマリアを動かします。

「すると、天使は言った。『マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。……』

マリアは天使に言った。『どうして、そのようなことがありえ

ましようか。わたしは男の人を知りませんのに。』

天使は答えた。『聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。』

ルカ 1:30-37

ガブリエルの言葉をとおして、神の決意と愛とはマリアの中に浸透してゆきます。そしてマリアの中に新しい思いが、新しい信仰が、新しい決意が誕生するのです。

「マリアは言った。『わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。』そこで、天使は去って行った。」 1:38

今日はわたしたちにもなじみのある、いわゆる受胎告知、天使ガブリエルとナザレのマリアの出会いの箇所を読んだのですが、昔のマリアだけではなく、わたしたちも呼びかけられていないでしょうか。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

神さまはわたしたちに対しても、何かを引き受けるように、祝福しつつ求めておられるのではないのでしょうか。

ところである人は、キリスト教の福音をただ一言で要約するとすれば「インマヌエル＝神がわたしたちと共におられる」だと言いました。これを大切にしたいと思います。

しかし、「神がわたしたちと共におられる」という言葉は、あまりに聞き慣れてしまっていて、わたしたちはかえってこれを実際には聞き流すようになっているかもしれません。

神さまはご自身が願われることをわたしたちに託されます。そして天使はわたしたちに対しても、わたしたちひとりひとりに対しても、この言葉を呼びかけています。

「主があなたと共におられる。」

この呼びかけを聞いているなら、なぜわたしたちはこんなに心配したり、悩んだりするのでしょうか。なぜわたしは、全てのことを自分の力と責任でしなければならぬように思い込んで固くなってしまっているのでしょうか。神が共にいて働かれるのに。

「主があなたと共におられる。」

これは一時的な慰めではありません。

「主があなたと共におられる。」

今日も、明日も、次の日も、その次の日も、ずっとずっと毎日、そして天に召される日も、この言葉はわたしたちを支え守ってくれるのです。

「主があなたと共におられる。」

どのような仕方で主が共におられるのでしょうか。

わたしたちの傍らにおられます。主はわたしの手を取り、わたしは主の手を握ります。

主はわたしたちの上におられます。主はわたしの上に手を置き、祝福してくださいます。

主はわたしたちの下におられます。わたしたちの土台となっていてくださいます。何があろうと、たとえわたしたちが底なしの沼に落ちていくように感じることもあったとしても、わたしたちは揺らぐことのない土台の上に生かされているのです。

そしてさらに主は、わたしの中におられて、わたしたちの労苦と喜びを共にし、わたしを引き受けつつわたしと共に働いてくださいます。

「主があなたと共におられる。」

マリアはこの言葉を生涯頼りとし、それを信じ、それに支えられて、生涯を生きました。

マリアに主が大切なことを託されたように、神さまはわたしたちにも、何か大切なものを託されます。使命と同時に、インマヌエルの約束がわたしたちにも与えられています。

「主があなたと共におられる。」

祈りましょう。

神さま、わたしたちにも「主があなたと共におられる」との約束を新しく聞かせてください。慣れきってもはや意味をなさなくなったような言葉としてではなく、わたしたちの守り、支え、命、力、導きとしてこれを聞かせてください。そうしてあなたがわたしたちに願い託しておられることを行うことができるように祝福してください。主のみ名によってお願いいたします。アーメン